

## 学会等受賞論文の概要

受賞者	西村 亮彦（防災・メンテナンス基盤研究センター 緑化生態研究室）
論文題目	Humanscape から読み解く都市空間の公共性 ーメキシコ・シティ旧市街フアン・ホセ・バス広場を例にー
授与機関	公益社団法人土木学会 景観・デザイン委員会
受賞時期	平成27年12月
受賞内容	第11回景観・デザイン研究発表会 優秀講演賞
論文概要	<p>国土交通省では、道路空間の多目的利用や官民連携を通じた公共空間の利活用を進めてきた。質の高い公共空間の創出については、ハード整備と併せて、整備後の空間における市民活動を促進するためのプログラムづくりが重要である。しかしながら、都市のオープンスペースが多様な市民活動の受け皿として機能する上で、必要とされる社会的な施策等については、未だ究明されていないと言える。</p> <p>そこで、本研究では、伝統的に屋外空間の利活用が盛んなメキシコ・シティ旧市街のフアン・ホセ・バス広場を例に、都市のオープンスペースが持つパブリックスペースとしての質が醸成されるプロセスを、都市空間を舞台に繰り広げられる市民生活の景（Humanscape）から読み解くことを試みた。研究を行うにあたり、都市空間の公共性が、行政にとっての公共性「オフィシャル・パブリック」と、市民にとっての公共性「シビル・パブリック」の2種類の質から構成されると仮定した。</p> <p>調査・分析の結果、コミュニティの協働を通じて強靱なシビル・パブリックが醸成されるプロセスと、法的枠組みの柔軟な運用を通じてオフィシャル・パブリックが醸成されるプロセスが明らかになった。強靱なシビル・パブリックと柔軟なオフィシャル・パブリック、性格が異なる2つの公共性のダイナミクスの下、広場における多様かつ自由な市民の活動が成り立っていることが分かった。</p> <p>今後、更なる国内外の事例調査を通じて、質の高いシビル・パブリックを支えるまちづくり組織のあり方や、オフィシャル・パブリックとシビル・パブリックが押し合いへし合いできる柔軟な公物管理体制の提案につなげていきたい。</p>